

---

# 平成29年度予算第一特別委員会質問要旨

---

○ 局別審査

平成29年3月1日

質問者（質問順）

- 1 麓 理 恵 委 員 (民 進 党)
- 2 源 波 正 保 委 員 (公 明 党)
- 3 北 谷 ま り 委 員 (共 産 党)
- 4 山 本 たかし 委 員 (自 民 党)
- 5 遊 佐 大 輔 委 員 (自 民 党)
- 6 小 幡 正 雄 委 員 (維 ヲ コ)
- 7 横 山 勇太朗 委 員 (無 保 会)

こども青少年局

# 局 別 審 査

1 麓 理 恵 委員（民進党）
-----------------

## 1 局予算全体について

(1) 29年度こども青少年局予算の編成にあたっての所感について伺いたい。

## 2 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実について

(1) 区福祉保健センターと地域子育て支援拠点との連携の仕方について伺いたい。

(2) 母子保健コーディネーターに求める資格と業務内容について伺いたい。

(3) 訪問型母乳相談の事業内容について伺いたい。

(4) こんにちは赤ちゃん訪問事業の意義について伺いたい。

(5) 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実の考え方について伺いたい。

## 3 児童相談所・児童家庭支援センターについて

(1) 児童相談所における児童福祉司の過去3年間の平均在職年数の推移について伺いたい。

(2) 児童福祉司の平均在職年数が短いと考える。在職年数を伸ばすことが必要と考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 児童福祉司に対し、適切な研修やストレスチェックを行うなど、職場環境を整えることを要望する。

(3) 本市の児童家庭支援センターの特徴について伺いたい。

(4) 横浜型児童家庭支援センターの今後の展開について伺いたい。

(要望) 支援を担う職員の専門性向上のための支援の充実を要望する。

#### 4 里親推進事業について

- (1) 過去3か年の里親及びファミリーホームに委託された子どもの数と、里親及びファミリーホームの委託児童が占める割合である里親等委託率について伺いたい。
- (2) 委託児童を増やすための取組について伺いたい。
- (3) 子どもを受け入れていない里親を対象としたフォローアップ研修のねらいについて伺いたい。
- (4) 本市も里親推進とあわせて特別養子縁組に取り組んでいくべきと考えるが、見解を伺いたい。

#### 5 保育士確保について

- (1) 28年度保育所整備により必要とする保育士数と確保の見込みについて伺いたい。
- (2) 潜在保育士再就職支援の取組について伺いたい。
- (3) 保育所における保育士業務の負担軽減のために積極的に保育補助者を活用すべきと考えるが、見解を伺いたい。

#### 6 放課後児童クラブの移行支援について

- (1) 28年度放課後児童クラブの分割・移転の実施見込み数について伺いたい。
- (2) 放課後児童クラブ物件探しサポーター事業の概要と現在の状況について伺いたい。
- (3) 耐震に係る移転費補助を拡充した背景について伺いたい。
- (4) 31年度末までに分割・移転を達成するための決意について伺いたい。

#### 7 困難を抱える若者の自立支援施策について

- (1) 青少年相談センター、地域ユースプラザ、若者サポートステーションの役割の違いについて伺いたい。
- (2) 若者サポートステーション事業について本市としてどのように関わっているのか伺いたい。

- (3) 若者サポートステーション事業における就労等の実績について伺いたい。
- (4) 当事者同士での交流による回復支援をさらに充実すべきと考えるが、見解を伺いたい。

## 8 子どもの貧困対策について

- (1) 計画推進1年目の取組成果に対する所感について伺いたい。
- (2) 市内の子ども食堂の実施箇所数について伺いたい。
- (3) 区社会福祉協議会に対し、子ども食堂に関してどのような相談が多く寄せられているのか伺いたい。
- (4) 子ども食堂が継続していくために必要な支援について伺いたい。
- (5) 28年度寄り添い型生活支援事業の利用状況について伺いたい。
- (6) 生活支援事業と学習支援事業における学習支援の違いについて伺いたい。
- (7) 生活支援事業の今後の方向性について伺いたい。
- (8) 子どもの貧困対策の一層の推進に向け、統括的な部署を設置すべきと考えるが、副市長の見解を伺いたい。
- (9) 「子どもの里」のような取組が必要な地域があるのではないかと考え、本市でも実施すべきと考えるが、副市長の見解を伺いたい。

1 児童虐待防止の取組について

- (1) 区と児童相談所の連携の状況について伺いたい。
- (2) 児童福祉法等の改正を踏まえた、児童相談所の体制強化の具体的な取組について伺いたい。
- (3) 児童虐待に関わる職員の専門性向上のための取組について伺いたい。
- (4) 関係機関との連携の取組について伺いたい。

2 妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実について

- (1) 母子保健コーディネーターの配置により期待される効果について伺いたい。
  - (2) 母子保健コーディネーターの今後の配置の考え方について伺いたい。
  - (3) 産婦健康診査助成の導入による効果について伺いたい。
  - (4) 新しく訪問型母乳相談を始める理由について伺いたい。
  - (5) 訪問型母乳相談でどのような効果を想定しているのか伺いたい。
  - (6) 産後支援の推進にあたっての考え方について伺いたい。
- (要望) 事業により蓄積されたデータを解析し、新たな施策展開にも生かしていくことを要望する。

3 保育士の確保と人材育成について

- (1) 保育士宿舎借り上げ支援事業の拡充内容とねらいについて伺いたい。
- (2) 市内在勤保育士の子どもが保育所等を優先的に利用できるようにすべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (3) 園内研修や園内研究をどのように支援していくのか伺いたい。

4 子どもの貧困対策について

- (1) 子どもの貧困対策を、ふるさと納税の新たな寄附メニューとした目的について、副市長に伺いたい。
- (2) 子ども食堂の区別の実施状況について伺いたい。

- (3) 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業の具体的な内容について伺いたい。
- (4) 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業の実施区と選定理由について伺いたい。
- (5) 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業の今後の展開について伺いたい。

## 5 困難を抱える若者支援について

- (1) 本市がひきこもりの若者を支援する意義について伺いたい。
- (2) 本市の若者自立支援機関の新規利用者数の3年間の推移について伺いたい。
- (3) 27年度新規利用者数が減っている理由について伺いたい。
- (4) 区役所で困難を抱える若者の専門相談を実施するねらいについて伺いたい。
- (5) より多くの相談者が区役所での相談につながるよう、どのような取組をしていくのか伺いたい。
- (6) 保護司の活動の意義について伺いたい。
- (7) 再犯防止推進法（再犯の防止等の推進に関する法律）の施行や自治体雇用等による就労支援などの動きに対する所感について、副市長に伺いたい。

## 6 放課後等デイサービスについて

- (1) 放課後等デイサービス事業の目的について伺いたい。
- (2) 制度開始時と現時点での放課後等デイサービス事業所数の比較について伺いたい。
- (3) 現時点で、放課後等デイサービス事業所の情報公開について、具体的にどのように進んでいるのか伺いたい。
- (4) 放課後等デイサービス事業所の支援の質を高めるために、29年度に本市ではどのような取組を行っていくのか伺いたい。
- (要望) 利用児童の学校卒業後の生活を見据え、自立の準備のための支援を全ての放課後等デイサービス事業所が行えるようにすることを要望する。

7 放課後児童育成施策について

- (1) 放課後キッズクラブの質を高める取組について伺いたい。
- (2) 放課後児童クラブの耐震化を進めるうえでの課題認識について、副市長に伺いたい。

8 寄り添い型生活支援事業について

- (1) 事業の実施箇所を1区に1箇所と限定せず、必要な所には複数設置すべきと考えるが、見解を伺いたい。

1 子どもの貧困対策について

- (1) 子どもの貧困対策を一層推進するため、保育・教育現場の声、関係団体などの声をしっかりと聴き、それらを十分に反映した取組を展開すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (2) 東京都が実施した、子どもの生活実態調査の結果では、約20%の子どもが生活困難層にいとされ、あわせてその層をターゲットとした支援策の必要性が指摘されている。本市調査では貧困線を下回る水準で生活する子どもの割合は7.7%（約4万人）としているが、本市でも生活困難層にいる子どもは7.7%（約4万人）ではなく20%（約11万4千人）であると認識を改めるべきと考えるが、副市長の見解を伺いたい。
- (3) 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業の予算額と事業内容について伺いたい。
- (4) 子どもの食事を取り巻く状況は深刻であり、劣悪な条件にある子どもの食生活は、すぐにでも改善されなければならないと考えるが、見解を伺いたい。
- (5) 子ども食堂の利用人数について伺いたい。
- (6) 子ども食堂で提供されている食事数について伺いたい。
- (7) 運営に補助金を交付するなど、既存の子ども食堂に直接的な支援をすべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (8) これまでにひきこもりの支援につながった若者の人数について伺いたい。
- (9) 区役所に専門相談窓口を設置することにより、どれくらいの若者が新たに支援につながると考えているのか伺いたい。
- (10) 訪問相談などを行い、より多くの若者を支援につなげるべきと考えるが、見解を伺いたい。



## 2 放課後の居場所づくりについて

- (1) 2017年度予算案で拡充された内容について伺いたい。
  - (2) 放課後児童支援員の勤続年数や研修実績等に応じた処遇改善の内容について伺いたい。
  - (3) 国で定められた処遇改善で良しとせず、市独自に上乘せすべきと考えるが、見解を伺いたい。
  - (4) 人件費を増額して職員が安定して長く働けるようにすべきと考えるが、見解を伺いたい。
  - (5) 現場職員は、休みも取れない状況にあるが、こうした状況でよいと考えているのか伺いたい。
  - (6) 放課後児童クラブの約1万人に対して264人が対象と聞いているが、就学援助を受けている割合から見てもあまりに低いと思う。何らかの改善が必要と考えるが、見解を伺いたい。
  - (7) 放課後児童クラブの減免額を増額し、保護者の負担を減らすべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 減免額を含め、使い勝手の良い制度とするよう要望する。

## 3 児童虐待防止への取組の充実について

- (1) 国は虐待の相談や指導にあたる児童福祉司の配置基準を見直し、児童福祉司と児童心理司を増員しているが、その理由と児童心理司の配置基準を設けた理由について伺いたい。
  - (2) 児童相談所運営指針による配置基準の内容について伺いたい。
  - (3) 児童心理司の配置は少なくとも児童相談所運営指針を満たすよう早急に行うべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 現在の宿直体制を夜勤とすることなども検討するなど、夜間対応の充実など体制強化を図り、児童虐待防止への取組を更に充実するよう要望する。

#### 4 DV対策事業について

- (1) 加害者更生プログラムの内容と意義について伺いたい。
  - (2) 加害者更生プログラムの実績について伺いたい。
  - (3) 加害者更生プログラムを推進していく上での課題について伺いたい。
  - (4) 補助額はいくらか伺いたい。
- (要望) 公的な枠組みの策定を国に求めるよう要望する。

1 子どもの貧困対策について

- (1) 子ども食堂等地域の取組に対する期待について伺いたい。
- (2) 食事を提供するだけでなく、子どもにとって魅力的な活動をしていただく工夫が必要と考えるが、見解を伺いたい。
- (3) 子ども食堂等の取組を支援するため、市として食材調達のため、企業との連携を図るべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (4) 子ども食堂等の取組に対し、市内の民間資金を活用した支援を検討すべきと考えるが、見解を伺いたい。

2 地域ユースプラザ事業について

- (1) 地域ユースプラザ事業の特徴について伺いたい。
- (2) 青少年相談センターからではなく、地域ユースプラザから社会福祉士等を派遣することとした理由について伺いたい。
- (3) 人材の確保及び質を担保していくための方策について伺いたい。
- (4) 今後の若者の自立支援施策の推進についての決意について伺いたい。

3 横浜型児童家庭支援センターについて

- (1) 横浜型児童家庭支援センターをこれまでどのように整備してきたのか伺いたい。
- (2) 今後は必要性の高いエリアを優先し、スピード感を持って児童家庭支援センターの整備を進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。

4 在宅障害児への支援（地域療育センター運営事業）について

- (1) 障害種別など、地域療育センターを利用する児童の近年の傾向について伺いたい。
- (2) 東部地域療育センターに相談場所を設置することとした理由について伺いたい。

(3) 新たな相談場所でどのような支援を行う予定なのか伺いたい。

(4) これからの地域療育センターの機能強化の方向性をどう考えるのか伺いたい。

## 5 地域における親子の居場所づくりについて

(1) 常設の親子の居場所について、5年前と比較した整備状況について伺いたい。

(2) 本市における親子の居場所の整備ではどのような特徴があるのか伺いたい。

(3) 親子の居場所のスタッフのスキルを高める取組について伺いたい。

(4) 子育てパートナーによる相談の実績と内容の傾向について伺いたい。

(5) 拠点サテライト開所後に子育てパートナーを配置する考え方について伺いたい。

## 6 小規模保育事業等の整備について

(1) 小規模保育事業と認可保育所について、定員や施設規模の違いについて確認したい。

(2) 小規模保育事業を進めるにあたっての、物件確保に関する課題と対応について伺いたい。

(3) 企業主導型保育事業について、運営開始後に企業が撤退するリスクを踏まえつつも、積極的に進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) シンボリックな企業主導型保育事業所ができるよう、積極的に取組むことを要望する。

(要望) 保育を必要とする事情は、各家庭において様々であるため、様々な声に耳を傾けながら、公平性が確保された利用調整を行うことを要望する。

## 7 幼児教育の充実について

(1) 幼稚園預かり保育事業の実施状況について伺いたい。

(2) 幼稚園預かり保育事業の区別の実施状況について伺いたい。

(3) 幼稚園が預かり保育事業を実施しない理由について伺いたい。

(4) 幼稚園預かり保育事業の実施について、区による偏りを解消するための対応について伺いたい。

- (5) 幼稚園預かり保育事業を実施する園の拡充に向けた横浜市幼稚園協会との連携状況について伺いたい。
- (6) 小規模保育事業と幼稚園の連携を促進すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (7) 幼稚園預かり保育事業の質の向上に向けた対応について伺いたい。
- (8) 幼稚園が地域で果たす役割と期待について、副市長に伺いたい。

## 8 放課後キッズクラブについて

- (1) はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの転換の進捗状況について伺いたい。
- (2) 放課後キッズクラブの運営法人確保のための取組について伺いたい。
- (要望) 放課後キッズクラブとともに放課後児童クラブへの引き続きの支援を要望する。

## 9 ワーク・ライフ・バランスの推進について

- (1) 子ども・子育て支援の両輪の一つとしてワーク・ライフ・バランス推進の取組を一層強化すべきと考えるが、副市長に見解を伺いたい。

5 遊 佐 大 輔 委員（自民党）

1 警察と児童相談所の連携について

- (1) 神奈川県警察と児童相談所の連携状況についての現状と課題について伺いたい。
- (2) 神奈川県警察との連携に関する協定について締結日を含め、内容について伺いたい。
- (3) 協定を締結したことにより、今後の児童虐待対応がどのように強化されるのか伺いたい。
- (4) 神奈川県警少年相談・保護センターと児童相談所の連携状況について伺いたい。
- (5) 警察と児童相談所の連携強化に向けた決意について伺いたい。

2 里親推進事業について

- (1) 東日本大震災で孤児になった子どもの本市における受入状況はどうなっているのか伺いたい。
- (2) 震災孤児の受け入れ先としての里親制度についての考えについて伺いたい。

1 保育所待機児童ゼロの達成と保留児童数の把握と課題について

- (1) 実際の待機児童数は7人ではなく、2, 130人であると考えるが、見解を伺いたい。
- (2) 国が待機児童の定義の見直しを行っている理由について伺いたい。
- (3) 国の待機児童の解釈の問題ではなく、実際に入所できていない方がいることを認識しているか伺いたい。
- (4) 29年4月1日現在の待機児童数の見込みについて伺いたい。
- (5) 隠れ待機児童を解消するための課題について伺いたい。
- (6) 受入れ枠を整備するにあたっての課題と対応について伺いたい。
- (7) 希望する保育所に入所するための課題について伺いたい。
- (8) フランスやフィンランドの子育て支援施策と、日本・本市の施策との違いに対する認識について伺いたい。
- (9) シラク3原則の内容について伺いたい。
- (10) 保育の質の確保についての取組及び課題について伺いたい。
- (11) 今後の保育行政の方向性について伺いたい。

2 市立保育所民間移管について

- (1) これまでの成果と今後の課題について伺いたい。
- (2) 民間移管により保育所運営経費の縮減が図られているということだが、民間の方が給与が低いということではないか。民間保育所職員の処遇はきちんと保障されるべきと考えるが、見解を伺いたい。

3 子どもの貧困対策について

- (1) 子どもの貧困対策における課題について伺いたい。
- (2) 子どもの貧困の抜本的な対策などは、働き方改革や家計所得の改善が必要である。これについては、国レベルの取組が重要であり、国に対し要望をすべきと考えるが、副市長に見解を伺いたい。

1 児童虐待（居所不明児童・身体的虐待への対応）について

- (1) 29年度予算の中の児童虐待防止関連の事業の概要、特に拡充された事業について伺いたい。
- (2) 本市の居所不明児童の状況及び確認の取組について伺いたい。
- (3) 27年度の通告・相談件数と虐待種別ごとの件数について伺いたい。
- (4) 通告を受理してから目視による確認まで、実際にどれくらいの時間がかかっているのか伺いたい。
- (5) 虐待の認定や対処方針を決定する機関がどこか、またどのように検討を行うのか伺いたい。
- (6) 虐待の重症度・緊急度が高い場合はどのように対応するのか伺いたい。
- (7) 27年度中に新たに支援を開始した件数と年度末時点で継続して支援した件数について伺いたい。
- (8) 関係機関のネットワークの機能や取組状況について伺いたい。
- (9) 児童相談所において、専門性の高い人材を育成するためにどのような研修を実施しているのか伺いたい。
- (10) 虐待の未然防止、虐待の解消及び虐待死防止について、「正義のために取り組む」という気持ち、「正義感」という概念を強く持って取り組むべきと考えるが、副市長に見解を伺いたい。